

超高齢者の排便ケア — エコー一定着に向けた取り組み —

◎松野美保¹⁾ 本田朋子¹⁾ 坂本志緒¹⁾ 小倉さつき¹⁾
新田亜矢¹⁾ 赤間美樹¹⁾ 石井美智子¹⁾ 齊田知子¹⁾
桑田美代子¹⁾ 高橋聡明²⁾

1)医療法人社団慶成会 青梅慶友病院

2)横浜市立大学

COI 開示

筆頭者:松野美保

- ・ 本発表に関連し、開示すべき利益相反なし
- ・ 富士フイルムメディカル株式会社より、2025年4月～11月の期間、エコー機器(iViz air コンベックス)8台を貸与

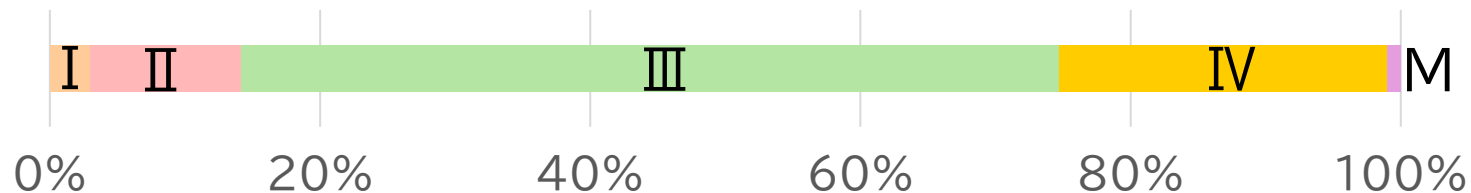
ご協力に感謝申し上げます。



はじめに：青梅慶友病院の概要

理念 「豊かな最晩年をつくる」

- 1980年開院
- 病床種別：医療療養病床(423床)
認知症疾患治療病棟(103床)
- 許可病床数：526床 ※2025/10/1現在
- 平均年齢：89.6歳
(90歳以上 273名 55.8%)
- 在院期間：平均 3.9年
- 認知症高齢者の日常生活自立度：ランク別構成比



超高齢者の便秘とケアの必要性

■ 便秘を引き起こす複合的な要因

- ・ ADL低下
- ・ 感覚の低下(便意を感じにくい)
- ・ 「出す力」の低下
- ・ 薬剤の影響(多疾患併存状態)

■ 特にケアが求められる背景

- ・ 認知機能低下(便意を訴えられない、排泄動作が困難)
- ・ 全介助状態(便座に座れない)

便秘は生活の質や全身状態に影響する課題
ケア提供者には「心地よい排泄」を支える役割がある

当院における便秘対策とエコー活用の歴史

ブラッドースキャン導入

2003: 浣腸の実施の有無

→ 成果: グリセリン浣腸液払い出し本数の減少

2009: 患者に合った便性状

→ 成果: ブリストルスケールを用いた便性状の客観的評価

2019

iViz air(膀胱尿量自動計測)導入
3名がエコー講習を受講

iViz air(直腸観察Plus)運用

2025: 便の見える化(エコーの活用)

便秘対策プロジェクト2025の全体像

【習得期】

エコー技術の習得

- ・講習会
- ・OSCE
- ・困難ケースのエコー

2025年
4月～6月

【課題明確化】

習ったが、活用できていない状況



エコーを行う
ケースと優先順
位の検討

7月

【対策・ルール化】

活用促進のルール
決定(介入前後で
の観察)

- ・体制構築
- ・書式統一

8月

【展開期】

活用促進のルール
実施(介入前後で
の観察)

ハンズオン研修会
の開催

9月

【取り組みの共有】

第5回慢性便秘
エコー研究会
(本日)

10月

【ゴール】

エコーを活用した
アセスメントと
ケアの質向上

11月

便秘対策プロジェクト2025の全体像

フェーズ1

【習得期】

エコー技術の習得

- ・講習会
- ・OSCE
- ・困難ケースのエコー

【課題明確化】

習ったが、活用できていない状況



エコーを行うケースと優先順位の検討

【対策・ルール化】

活用促進のルール決定(介入前後での観察)

- ・体制構築
- ・書式統一

【展開期】

活用促進のルール実施(介入前後での観察)

ハンズオン研修会の開催

【取り組みの共有】

第5回慢性便秘エコー研究会(本日)

【ゴール】

エコーを活用したアセスメントとケアの質向上

2025年
4月~6月

7月

8月

9月

10月

11月

フェーズ1:導入・技術習得期 (2025年4月～6月)

実施内容

- ・ エコーチーム編成:エコープログラム受講、新たに7名がOSCE修了
- ・ ファントム演習などによる技術習得
- ・ 講師による病棟巡回演習(6月):
排便困難ケース(全10病棟、合計18名)に対し、実際にエコーをあてることで、操作方法とエコー所見の見方を学ぶ

この時点での状態

「使い方はなんとなくわかってきた」

「実際に患者にあてることで、あて方や画像の見方を学んだ」

便秘対策プロジェクト2025の全体像

フェーズ1

【習得期】

エコー技術の習得

- ・講習会
- ・OSCE
- ・困難ケースのエコー

2025年
4月～6月

フェーズ2

【課題明確化】

習ったが、活用できていない状況



エコーを行う
ケースと優先順
位の検討

7月

【対策・ルール化】

活用促進のルール
決定(介入前後で
の観察)

- ・体制構築
- ・書式統一

8月

【展開期】

活用促進のルール
実施(介入前後で
の観察)

ハンズオン研修会
の開催

9月

【取り組みの共有】

第5回慢性便秘
エコー研究会
(本日)

10月

【ゴール】

エコーを活用した
アセスメントと
ケアの質向上

11月

フェーズ2: 課題明確化と対策 (2025年7月~8月)

直面した課題

エコーを十分に活用できていない

対策

1. 浣腸・摘便・坐薬実施前後のエコー観察のルール化(活用機会の担保)
2. 全病棟への拡大のための協力体制づくり
3. 記録類の標準化

フェーズ2: 課題明確化と対策 (2025年7月~8月)

結果

- 「最低3ケースあてる」ルールにより、エコーに触れる機会が増加
- 徐々に所見の見方がわかるようになり、「アセスメントし、ケアにつなげる」意識が向上

便秘対策プロジェクト2025の全体像

フェーズ1

【習得期】

エコー技術の習得

- ・講習会
- ・OSCE
- ・困難ケースのエコー

2025年
4月～6月

フェーズ2

【課題明確化】

習ったが、活用できていない状況



エコーを行う
ケースと優先順
位の検討

7月

【対策・ルール化】

活用促進のルール
決定(介入前後で
の観察)

- ・体制構築
- ・書式統一

8月

フェーズ3

【展開期】

活用促進のルール
実施(介入前後で
の観察)

ハンズオン研修会
の開催

9月

【取り組みの共有】

第5回慢性便秘
エコー研究会
(本日)

10月

【ゴール】

エコーを活用した
アセスメントと
ケアの質向上

11月

フェーズ3：院内研修会の実施

ねらい

- ・ “使える人だけの道具”にしない
- ・ 体験により病棟文化として根づかせる

方法

- ・ 講義(当院の便秘対策の歴史、エコーの基礎知識)＋ハンズオン

根拠

- ・ 体験しないと定着しない
- ・ 見る力がそろって初めて定着が可能

BCD講座開催のお知らせ

便秘対策プロジェクト — エコーで便を可視化する —

当院の
便秘対策
プロジェクトの
歴史



エコーの
「あて方」
「みえ方」が
体験できる

エコー機器に「触って学ぶ」体験会も行います。ぜひご参加ください！

9/29 (月) ①16:00～17:00
②17:45～18:45

場所：コンサートホール

申込方法

- 参加申込書(病棟配布)に氏名を記入し、看護介護開発室のメールボックスまでご提出ください。提出期限：9月19日
- 研修対象：看護職・ケアワーカー
- ご不明な点は看護介護開発室までお問い合わせください。

実際の研修会の様子

エコーの基礎を
学ぶエリア

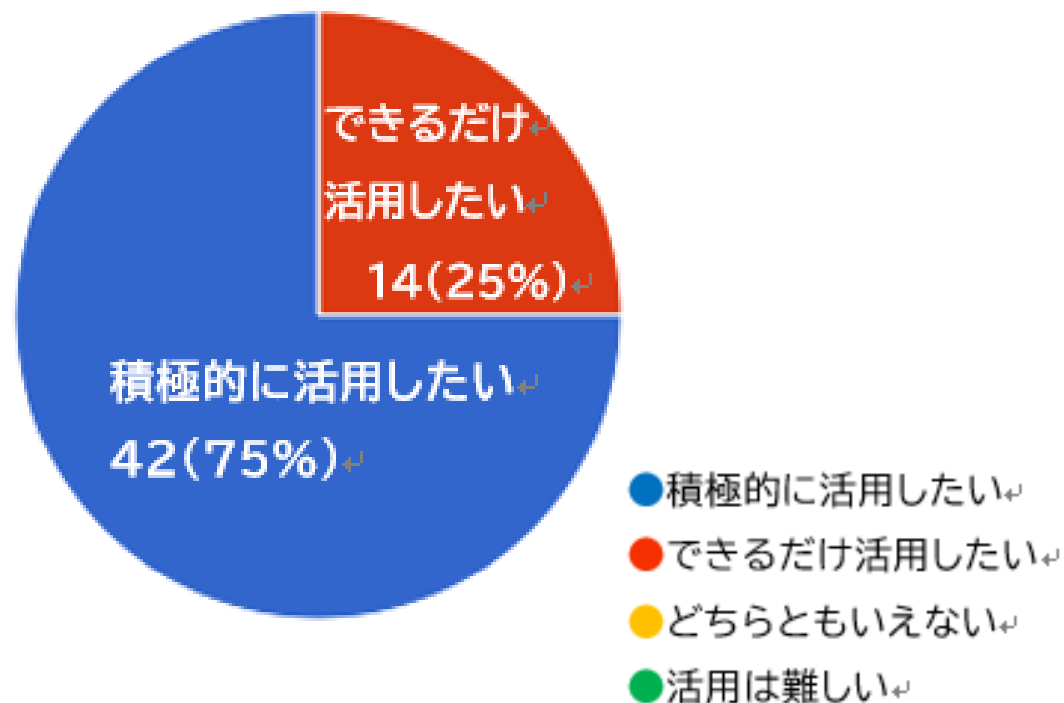
ベッドでの体験エリア

ファントム
ハンズオンエリア

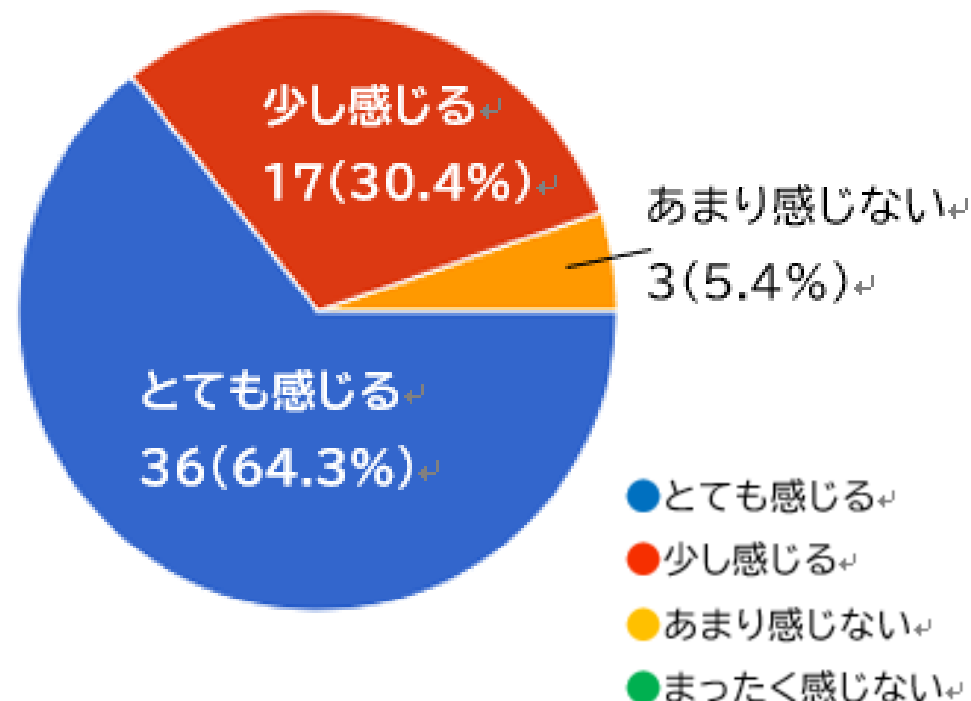
参加者へのアンケート結果

・ 56件の回答 (回収率:72.7%)

Q:ケアの場面でのエコーの活用について

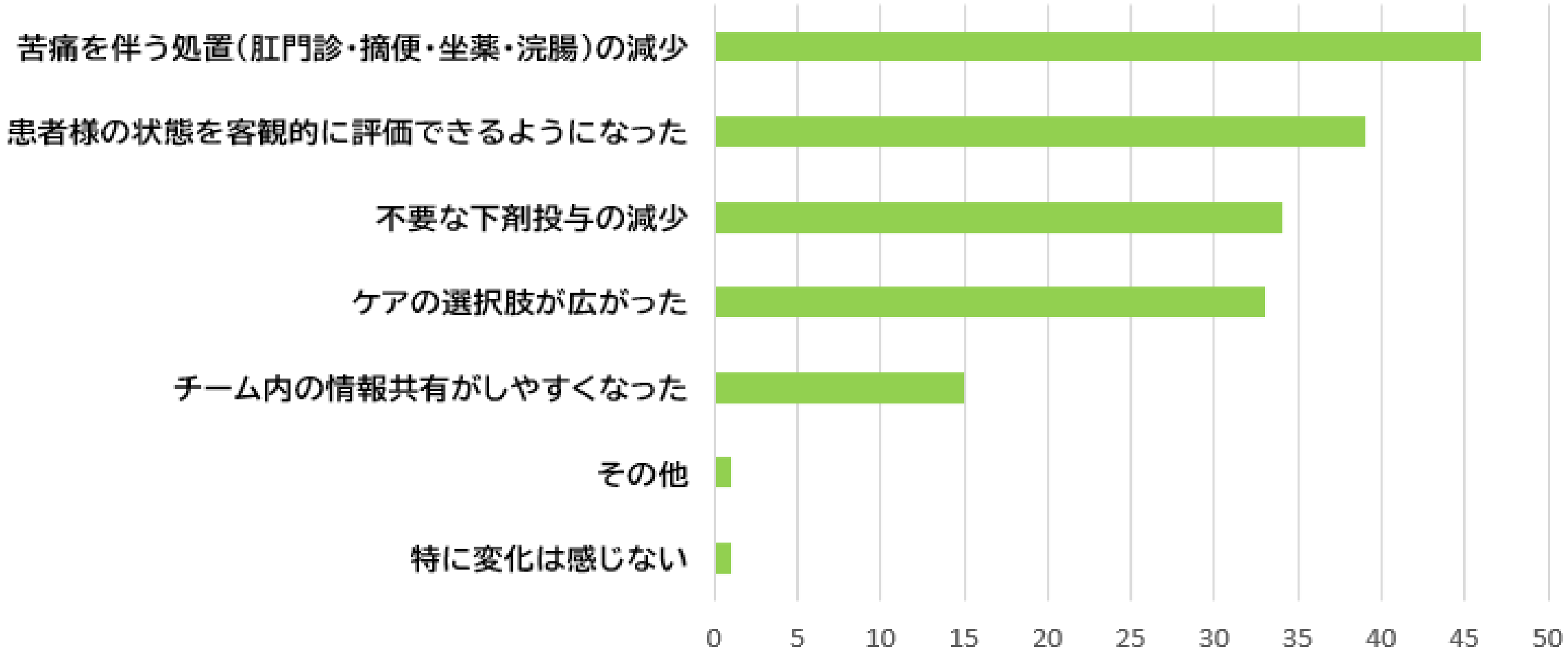


Q:便秘ケアに関するケアの選択について、エコー導入後に変化を感じますか？



アンケート結果：エコー導入による効果

Q:エコー導入により、以下の変化を実感していますか？



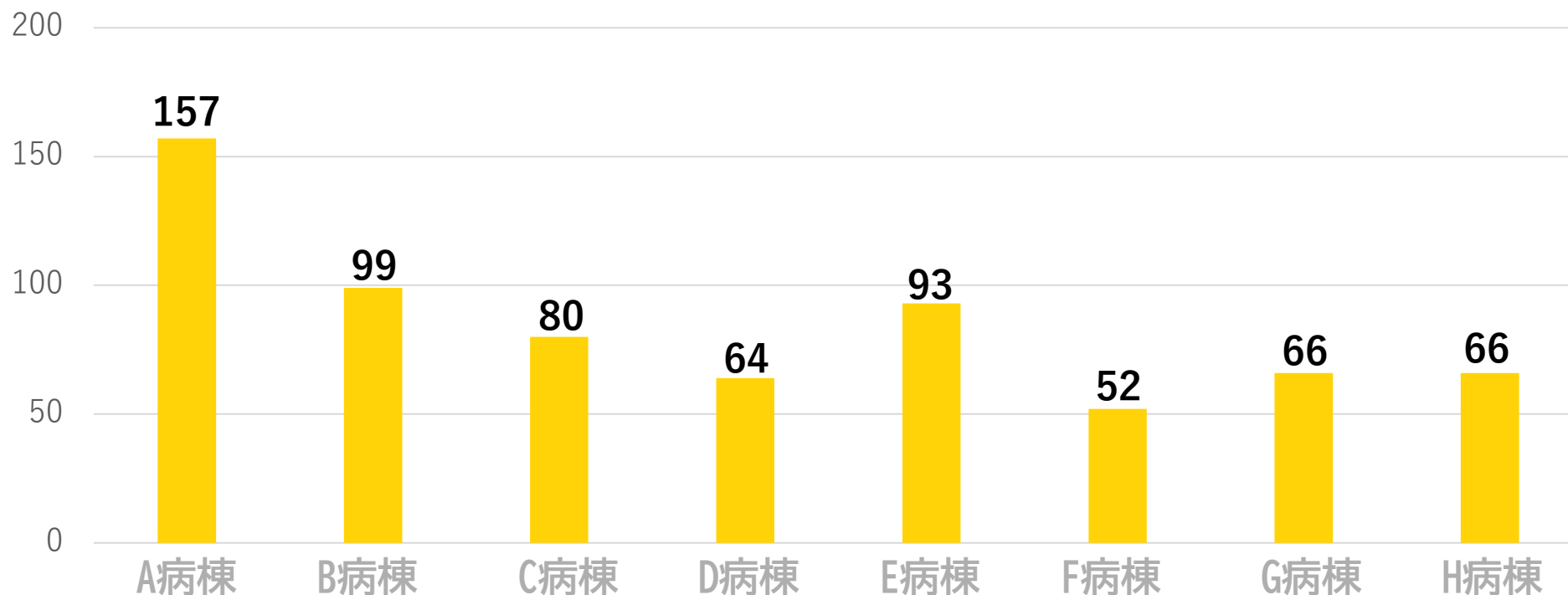
アンケート結果：スタッフの声

- 導入前は「何となく」「とりあえず」で下剤や摘便を行っていたが、導入後は根拠を持ってケア(経過観察、薬剤選択)を選べるようになった。
- 患者様の苦痛となる直腸診や刺激性下剤が減らせると実感している。
- 導入時は気が重かったが、今はエコーが楽しい。
- AIモードが読影の不安を軽減してくれている。
- 直腸に便を確認できた時、どのようなケアが必要か判断に迷うことがある。所見をどうケアに繋げるか、アセスメントの方法をさらに学びたい。
- タイムリーに活用するため、各病棟に1台エコーを常備してほしい。

フェーズ3の結果:エコーの活用状況

2025年9月の実績

- 8病棟(医療療養病棟/認知症疾患治療病棟)で運用
- 1ヶ月あたりのエコー実施件数の平均:84.6(±31.0)件



今後に向けて

エコーを活用したアセスメントとケアの質向上

- ・「エコーは当たり前前にそこにあるもの」「ケアに使うのが当然」という共通認識(=組織風土)が生まれ、特別な意識なく自然に活用される状態

- 各病棟で実践した症例の共有
- 「心地よい排泄」のためのアセスメントとケア

ご清聴ありがとうございました

